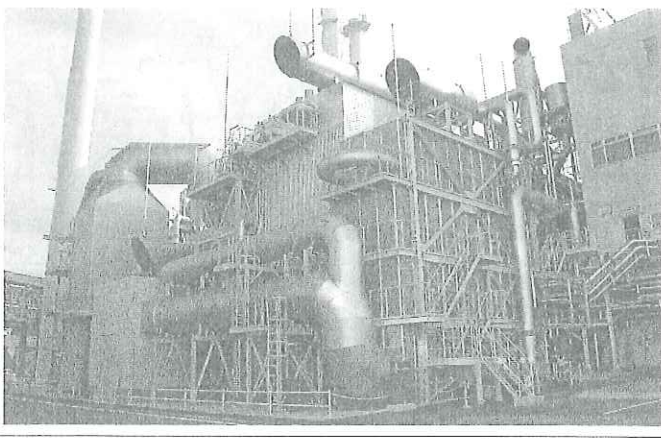


ENAC 総合ユーティリティサービス 富士フィルム足柄開始

東京ガスの子会社エネルギーアドバンス(三浦千太郎社長、ENAC)は9月から、富士フィルム神奈川工場足柄サイトで総合ユーティリティサービスを開始した。従来のオンサイト・エネルギーサービスに純水や圧縮空気などエネルギー以外のユーティリティも含め、顧客のニーズに合わせてワンストップで提供するサービスだ。今回、初めて既存工場への導入にこぎ着けた。この実績をばねに需要開拓に弾みを付けたいと考えた。

既存工場に初導入

神奈川工場足柄サイトは富士フィルム創業の地。昭和8年から今日まで70年以上にわたり、主力工場として操業を続けている。現在の生産品目は写真フィルムをはじめ、液晶偏光板材料、化粧品など多岐にわたる。富士フィルムは重油から天然ガスへの燃料転換を進めており、足柄サイトは2004年に天然ガスを導入。今回、重油た



新設した高圧ボイラー(120t/時)

き高圧ボイラーを天然ガス専焼(蒸気発生能力120t/時)に更新し、天然ガス化を完了させた。このボイラー更新に合わせて、工場内の電力、蒸気、純水、冷風などを

人を効率的に展開



三浦千太郎社長

当社には14カ所の地域冷暖房をはじめ、多くの供給拠点と経験豊富な技術者がいる。人を効率的に展開できる強みを発揮していきたい。

昨年4月に広域エネルギーサービス部を設置し、関東200km圏を中心にエネルギーサービスを提供できる体制を整えた。これからは様々なガス事業者などのサポートにも力を入れていく。

(談)

の後順調に受託先を増やしてきた。ただ、いずれも新設案件が対象で、既存施設はなかった。

既存工場の難しさは、設備や人の配置が出来上がっており、ENACが自前の技術をそのまま持ち込めない点にある。今回のサービス提供には、準備期間として足掛け5年を費やした。三浦社長は、「足柄サイトは新境地冷に匹敵する規模で、エネルギー使用量が多い。しかも、伝統があり、独自の運用ノウハウが蓄積されている。工場の文化を引き継ぐ初めての経験で、移行期間としてまだ数年かかる」と説明する。

設備の運用・管理は日勤・交替勤務(3交替)合計30人体制で行う。従来の体制を引き継ぎ、現業社員を出向で受け入れて、技術やノウハウの継承に取り組む。

工場の生産活動は年間計画をベースに、月、日単位で細かく調整される。電気や熱の使用量もそれに伴い刻々変化する。設備運用には柔軟できめ細かな対応が求められる。

足柄サービスステーションの川村知広課長は、「お客さまとENACのそれぞれの強みを生かし、より高い次元での運用を実現したい」と語る。総合ユーティリティサービスでは顧客と事業者のリスク負担をどうするか、契約の決め方がとりわけ重要になる。今回

の実績が今後の需要開拓にどう生かされていくのか。エンジニアリング部の松本幹雄マネージャーは「リスクの負担方法の鍵を握るのは事前調査やコミュニケーション。そこでは経験がものを言う。今回得られたノウハウは必ず大きな力になる」としている。